

きんぎんそう

*Goodyera procera* Hooker

ヒマラヤからマレイにわたって生ずる多年生蘭で、台湾、琉球を経て屋久島や小笠原にも稀に生ずる。高さ50cm内外、多肉茎の下部は傾上。葉は下部に稍々密に左右に着き、長楕円形、長さ10cm内外、先端基脚共に鋭尖して5cm内外の柄となる。淡緑色で稍々肉厚く光沢あり。4-5月頃細かい花を多数につけた穂を直立し、白花を開く様はジャコウチドリと似る。花長3mm内外、花蓋片は丸く集まって立ち、唇弁は卵形で、基部に2個の円い突起、膨らんだ脚部の中に左右2列の毛がある。和名は花はじめ白く、やがて黄変するに由る。



らん科

ひめむようらん

*Neottia asiatica* Ohwi

本州中部以北の針葉樹林の林下にはえる多年生の菌根植物で高さ15cm内外、ひどく痩せている。根は針金様で多数叢生する。茎上には3-4個の鞘状葉があるが緑色を帯びない。7月頃、茎上に細い穂状に総状花序を出して10-20花を開く。花は淡褐色、花下に膜質の小形苞あり、花は径3-4mm、内外花蓋片は披針形で尖り、開出する。各々1脈あり、唇弁は外片とほぼ同長で、三角状卵形、上半部では両縁が内方へまくれる、3脈あって、距はない。蕊柱は甚だ短かく、花粉塊は粉状。和名は緑葉なく、小形なるにより姫無葉蘭となづく。

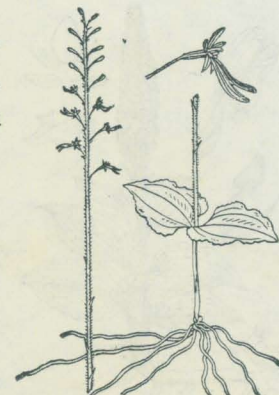


らん科

あおふたばらん

*Listera Makinoana* Ohwi

関東以西の低山の疎林下、稍々乾き気味の地に屢々集ってはえる多年生草。高さ花序ある時に15-20cm、地下に短い根茎あり。茎は痩せ下部に2葉を対生、葉は平坦で卵形截脚、表は蒼緑色で不鮮明の斑紋があり、縁辺は細かい縮れあり。花は7-8月頃、7-20花を総状につけ、全体淡緑色で紫色を帯びない。外花蓋片は楕円状披針形で鈍頭、内片は同長で線形、唇弁はその倍長で6mm長、倒卵形で先端2裂し、裂片は円頭且つ互に先で重なる。基部の両側には附属片がない。和名は青二葉蘭で全体に紫色を帯びることがないのに因る。



らん科

たかねふたばらん

*Listera Yatabei* Makino

本州中部の針葉樹帯の草中に生ずる多年生草本。比較的稀である。高さ20cm前後、地下茎は細く糸状で匍う。全草軟かく且つ瘠せている。葉は茎の中部より少しく上につき、ここから上は茎に軟毛がある。葉形円腎形で微凸頭、脚は截状心形、淡緑色、長さ2cm、乾けば膜質で茶褐色となる。花は10花内外、疎につき7月に開花、白味勝ちの淡緑褐色、外花蓋片の上片は狭長楕円形だが、側片は鎌形に曲がる。唇弁は2倍長で5mm内外、さじ形で先端は2裂して裂片は互に斜めに離れる。また基部の両側に極微の小突起がある。



らん科

みやまふたばらん

*Listera nipponica* Makino

日光を中心とする本州中部の亜高山帯の林下の草地に生ずる多年生草本で、高さ10-20cm、前述のタカネフタバランに酷似するが、花の構造が違ふ。即ち花は紫色を帯びた緑色で花蓋片は5片共に狭長楕円形で互に同型、唇弁は巾広く(6mm内外)広卵形で扇形に開き、2裂した裂片は広く、縁に低い鋸歯があり、また基部両側の突起も1.5mm長の楕円形で大きく且つ附根でくびれている等の違いがある。和名は深山二葉蘭。



らん科

ひめふたばらん

*Listera shikokiana* Makino

千葉県以西の暖地の常緑林下の稍々多湿地にはえる多年生草本で高さ13-22cm、地下に短い根茎があり、年々1茎を立てる。茎は角張り、軟かいが直立、淡紅褐色、葉は中央辺に2個対生し、深緑色の三角状卵形で、中肋のみ強く裏へ隆起する。4-5月頃に総状花序をなして5-12花をつける。花は紫色を帯び、唇弁が水平に位置する。花蓋片5片は大体卵状楕円〜線形、鈍頭、唇弁は6-9mm、深く2裂し、薄い肉質、中央は隆起する。基部の突起は細長く、しかも同属の他種と違って後方に反り、蕊柱を抱く。和名に姫といっても本属中むしろ大型に属する。



らん科